



不登校やひきこもり、発達障害などの悩みを抱える当事者や家族が2022年3月に設立した「NPO法人ピアサポートつむぎ」(河本純子理事長)。当事者らが孤立することなく安心して生活できる社会の実現を目指し、居場所の運営や相談支援、地域の理解促進に向けた啓発活動などに取り組んでいる。

同NPOは、鳥取県中部を拠点とする任意団体「保護者のピアサポートの会」(発達障害がいの親の会)と「虹の会」(不登校や障がい、ひきこもりの親の会)が、これまでの経験を生かし、より一層当事者目線で活動しようと発足。

安心できる居場所づくり

■ 83 □
NPO法人ピアサポートつむぎ (倉吉市)



安心できる居場所づくりに取り組むピアサポートつむぎの理事ら

倉吉市内の空き家を整備し、2022年7月に活動拠点「つむぎ」を開所した。つむぎは、特別支援教育士、公認心理師、教師、保育士などの有資格者や、ひきこもりや不登校経験者などスタッフ17人と多数のボランティアで運営。情報交換や学びの場を提供するほか、料理やゲームなど好きなことを楽しむことができ、家族も含めて温かく迎え入れる居場所づくりに尽力する。

全てボランティアで成り立っているため、資金の捻出が課題。鳥取県がふるさと納税の仕組みを活用し、地域づくり団体を応援する「ギフト鳥」の寄付対象団体に登録し、寄付金を通年受け付けている。

河本理事長は「こういう居場所があることをより多くの人に知ってほしい」と活動内容などを交流サイト(SNS)に発信。「私たちも学校生活や子育てで悩んできた経験はあるので、不安な気持ちは理解できる。気軽に相談してほしい」と呼びかけた。